

⑦

アサオ—「どういや、日本と較べて— ずばらしくた
々としていろいやるうか。—」

—「こは づういんでもずうと 東北にあた
るんぢや。南の方のサンパロヨリあたりに
日本人もたくさんあるか？ こゝあたりに
は、またたくさんわしひとりぢや。—」

わしはこゝでひとりでも頑張つて来た。—
いやか？ おぬしらかまてくて。これでもう
わしも大丈夫いよ。こんなうれしいことは
ない。これでもう安心いよ。—

わしの フアセンタ—「フアセンタ」というの
は、~~そう~~ といや 鬼園のこといよか？— おぬ
しらに手伝つてもらへば？ もともとと立派
な工、ものになるいやるう。—

わしの フアセンタは日本のあゝ小さい
島に較べると、何十倍いよ、何百倍と
いう大きさいよ。明日もたゆくちと見せ
てやるか？ おぬしら、いつかするほどの
大きさいよ。そこでわしは牛を飼つて
いるわけいよ。それもおぬのうん— 匹
や— 匹といはわやかちかう。○百頭も
いるんぢや

— 牛は可愛いもんいよ。こゝに仔牛を
んといは— サウヤさんもまうと好きになる

- (13) サエリ — いやう。どうしてんですか あや牛
- サエリ — たのしみですわ。仔牛を見るのが。牛も
本當に可愛いいでしよえやネ お母さん。
- マリ — 牛が何百頭もいた。それには想像もつか
ないは。でも、こんな広い土地にいたか
ら(とがりりと見まわす)牛を動かすとかで
- サエリ — 本當ですわえ。山ばかりに囲まれたく
の景色にたれていて。あまりひろくて、ホカと
- (15) サエリ — しじまうみ。あんなに日本から来た人も
つとまらねたのかしら。こゝ高土山の会
- (9) マサオ — 何が入っているの いや、そこは、
キヨシロ — これですか？
- マサオ — 何やら大層なやつ、どういやるか
キヨシロ — 叔父さんもご覚へたれば、覚へかある
と思ひますか。ご先祖様からの家宝を持っ
て来なんです。
- (10) キヨシロ — 叔父さんからの手紙で想像はしていたが、
これは、それ以上のひろさだ！
- サエリ — ずうと向こうの山まで、全部叔父
さんの土地なんですわ！
- キヨシロ — あや牛もみんな叔父さんのからうた。
サエリ — 信じられないやう。

(13) サエリ — まあ、どうしたんですか、あゝ牛
マサオ — イサをくわすために、あゝやって牛を
追い込んでやるんや。

キヨシロ — 見てたもんですわ、あゝ牛を追って

(17) マサオ — いる途中、いすか？

マサオ — あゝ思うように牛を動かすことがで
きる連中や。

(15) サエリ — これはお父さんが日本から来た時も
つづまられたのかしら、この富士山の絵。

エリ — そうでしたわ。

サエリ — こっちはマリア様の絵ね、ま。

エリ — これからは暑いやね、毎日二回
腰かゆて暮すのね。(とりつてみる)

サエリ — ま、そうする暑いやね、お父さん
お母さん。

エリ — そうかしらね。

キヨシロ — 山田のお父さんももうすっかり真白で
すね、夏が。

マサオ — そうだろう、来たり五つとしゃから
西山のお母さんの方はどうかい。

キヨシロ — ま、ま、丈夫で元気なわい。
と、お父さんは年々若い人は若く
まわね。

マサオ — それはまあ、つうことは気候がいい

土に人さん募せるかういふよ。またかわくも
ハアさん ~~の~~に死にたいから 土と氣のふくから
つた。

⑧ マサオ——これはオミエの大子に似ていたかも知れぬ

(17) マリ~~ン~~ーに何をいいますか？

マサオ — これは江戸-じゃ 昔やうな字の字
マサオ — 何んたん! 昔の字やア、ニ

サ2) — 2α の物理的意味? $\frac{d}{dt} \ln \rho = -\alpha$

アサリ — galinha ao molho pardo といふこと
アサリ — galinha ao molho pardo といふこと

サエワ マリ — 飯の味、これに勝る 煮込み

マサト — (Emgracia 4) Que é molho pardo?

Engaracia — Sangue de galinhas com ovo.

(20) 中酒 de vinigre 大麦 小麦 粟 稗 米 糠 等

マサオ一筆、血に面をませし者たもあはせ

$\eta = 1 \rightarrow$ 主軸! の方向; 遠く離れたところから来た

マサチ — われのこは思ふ事とてある

マ リ ———— そうで ずか、 いや、 お、 な ち や ^ま 大 抱

第2回 江戸幕府の成立と徳川家康の政治

マサオ — いや それじゃ駄目、残念じゃが
 特子が早く入らんやないや

21 - 24.1.14 日本から 14.1.14 早送送る
14.1.14 14.1.14 14.1.14

サリ — 段々寸々、本底のあつたやうに

菊や梅もありす也。

マサオ—菊も梅もこころは 思ふまゝに花女

**Fundação
Coopercotia**

REVISTA LAVOURA E COOPERATIVISMO

AV. PEDROSO DE MORAIS, 631 - TELEFONES: 80-9186 - 80-7306
CAIXA POSTAL N.º 11.067 - SÃO PAULO-9 - S. P.

たんに、や。か？ こころは じつと まわっているの
たにさんあそび。 たにさんあそび

(18) マサオ — これは #ミエの大子にしているともいふや
か?

サユリ — 土居 きれい (とけいこのこ)

マ~~キ~~^リ — 五人とん! キエの~~キ~~の~~キ~~の~~キ~~のこと

アサチ — これを あんたにあげよう

421 — 172と21す。

マサオ — ち、もろこしさん。

サユリ — ありがとうございます 貴女さん

(20) せうじゆ——最初は大変だが、馴れればきっと
22の墓しもある。

サ24 — そうネ、何、から遠く離れたところ、たそけ

計しなす。 2^{nd} 未だ 1^{st} $\approx \alpha$ 計しなす。

何れにせう曰、此道精粹、

7月20日 — 本報書以外にともたすも矢のあつた

いれど、 φ と、 ± 1 、 ± 2 が互いに素な、 $2 \leq n$ 。

11. 大ねも安心だ。

サマサ — 氣位也。女ハモ又モハ有。といハサハ

合ちかろいふと、よくたのすい、たねる

と思うら、海人の道が世に世に

対称性 — $\rho_{12} = \rho_{21}$ かつ $\rho_{12} = \rho_{21}^*$

土をうたへ。いさゝかやうな

教22や22、うと印41は、きつと2α

マサト 土地もうんと土、PI32. 4PI 20PI 6.1ヤ

東山の山 — 北麓の中村松屋 久仁住 寛文乙未

(25) マサオ — これはマリオいせ。次はじつせ。

これから 10^4 の。 $\dots$ $\therefore$ $10^4 \times 10^4 = 10^8$ 。

アト = かわり 右月宛

$$1 \leq x_1 \leq x_2 \leq \dots \leq x_n \leq 1 \quad \left(\frac{1}{x_i} \right) \rightarrow 2, 4, 3$$

第 1 次 試験 合格者

$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

(28) マサオー こつちに植えてあるマサ マンジョカ

これほどよいことはない等の一言もない。お

この大団は、どうもろこししゃ、これかわし

のとろの主な何物いやあ

★ヨロイ — 装束とやらをいふのであか。ここて

$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

マサオ — さん あかはともやうにぢやか

[illegible]

之田の力はわしか 道端拾得して力ぞう-

$\frac{1}{2} \times \frac{1}{2} = \frac{1}{4}$

其日一——月一——日

フセオ——半のなけ フセト=オ、カルに3に

まかせ。さうじゃ あれは中のことだよ

4022 いる。毎人に1枚か2枚。43

キヨシロ — どうも うれしと = 3 2 x カ - 4 = カ

というわけであらう。地でもどこもあまり地味。

がたがたのうですえ

マサオ — あ、こころん — ちやなこうなんいや

(キヨシロ) — 水をかければ、うちは育ちがよくなる

たると思うんが、さかたに水をかけたら

かたがた。 — ちやなは、さかたに水をかけたら

マサオ — いや、ちやなは、さかたに水をかけたら

1枚の葉が、うちは、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

キヨシロ — そうですか、さかたに水をかけたら

マサオ — あ、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

(5) キヨシロ — さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

マサオ — あ、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

(29) サコリ — さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

マサオ — さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

サコリ — さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

マサオ — さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

マサオ — さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

ちやな、さかたに水をかけたら、さかたに水をかけたら

**Fundação
Coopercotia**

REVISTA LAVOURA E COOPERATIVISMO

AV. PEDROSO DE MORAIS, 631 - TELEFONES: 80-9186 - 80-7306
CAIXA POSTAL N.º 11.067 - SÃO PAULO-9 - S. P.

(35) サユリ — 静かなね... コトキ'カシ 鳴
ウツロ... トキ、~~夏~~夏、夜ナク...

キヨシロ — ヒルマは暑かつたか? 冷たいかと
いふ。 暑くないが、冷たいでもない。

感心。生。け。る。と。い。ふ。事。は。大。変。な。事。だ。と。思。う。こ。れ。が。一。つ。の。理。由。で。あ。ら。う。

キヨとロ — 3人. 4人になる. 2人3人4人5人6人7人8人9人10人11人12人13人14人15人16人17人18人19人20人21人22人23人24人25人26人27人28人29人30人31人32人33人34人35人36人37人38人39人40人41人42人43人44人45人46人47人48人49人50人51人52人53人54人55人56人57人58人59人60人61人62人63人64人65人66人67人68人69人70人71人72人73人74人75人76人77人78人79人80人81人82人83人84人85人86人87人88人89人90人91人92人93人94人95人96人97人98人99人100人101人102人103人104人105人106人107人108人109人110人111人112人113人114人115人116人117人118人119人120人121人122人123人124人125人126人127人128人129人130人131人132人133人134人135人136人137人138人139人140人141人142人143人144人145人146人147人148人149人150人151人152人153人154人155人156人157人158人159人160人161人162人163人164人165人166人167人168人169人170人171人172人173人174人175人176人177人178人179人180人181人182人183人184人185人186人187人188人189人190人191人192人193人194人195人196人197人198人199人200人201人202人203人204人205人206人207人208人209人210人211人212人213人214人215人216人217人218人219人220人221人222人223人224人225人226人227人228人229人230人231人232人233人234人235人236人237人238人239人240人241人242人243人244人245人246人247人248人249人250人251人252人253人254人255人256人257人258人259人260人261人262人263人264人265人266人267人268人269人270人271人272人273人274人275人276人277人278人279人280人281人282人283人284人285人286人287人288人289人290人291人292人293人294人295人296人297人298人299人300人301人302人303人304人305人306人307人308人309人310人311人312人313人314人315人316人317人318人319人320人321人322人323人324人325人326人327人328人329人330人331人332人333人334人335人336人337人338人339人340人341人342人343人344人345人346人347人348人349人350人351人352人353人354人355人356人357人358人359人360人361人362人363人364人365人366人367人368人369人370人371人372人373人374人375人376人377人378人379人380人381人382人383人384人385人386人387人388人389人390人391人392人393人394人395人396人397人398人399人400人401人402人403人404人405人406人407人408人409人410人411人412人413人414人415人416人417人418人419人420人421人422人423人424人425人426人427人428人429人430人431人432人433人434人435人436人437人438人439人440人441人442人443人444人445人446人447人448人449人450人451人452人453人454人455人456人457人458人459人460人461人462人463人464人465人466人467人468人469人470人471人472人473人474人475人476人477人478人479人480人481人482人483人484人485人486人487人488人489人490人491人492人493人494人495人496人497人498人499人500人501人502人503人504人505人506人507人508人509人510人511人512人513人514人515人516人517人518人519人520人521人522人523人524人525人526人527人528人529人530人531人532人533人534人535人536人537人538人539人540人541人542人543人544人545人546人547人548人549人550人551人552人553人554人555人556人557人558人559人560人561人562人563人564人565人566人567人568人569人570人571人572人573人574人575人576人577人578人579人580人581人582人583人584人585人586人587人588人589人590人591人592人593人594人595人596人597人598人599人600人601人602人603人604人605人606人607人608人609人610人611人612人613人614人615人616人617人618人619人620人621人622人623人624人625人626人627人628人629人630人631人632人633人634人635人636人637人638人639人640人641人642人643人644人645人646人647人648人649人650人651人652人653人654人655人656人657人658人659人660人661人662人663人664人665人666人667人668人669人670人671人672人673人674人675人676人677人678人679人680人681人682人683人684人685人686人687人688人689人690人691人692人693人694人695人696人697人698人699人700人701人702人703人704人705人706人707人708人709人710人711人712人713人714人715人716人717人718人719人720人721人722人723人724人725人726人727人728人729人730人731人732人733人734人735人736人737人738人739人740人741人742人743人744人745人746人747人748人749人750人751人752人753人754人755人756人757人758人759人760人761人762人763人764人765人766人767人768人769人770人771人772人773人774人775人776人777人778人779人780人781人782人783人784人785人786人787人788人789人790人791人792人793人794人795人796人797人798人799人800人801人802人803人804人805人806人807人808人809人810人811人812人813人814人815人816人817人818人819人820人821人822人823人824人825人826人827人828人829人830人831人832人833人834人835人836人837人838人839人840人841人842人843人844人845人846人847人848人849人850人851人852人853人854人855人856人857人858人859人860人861人862人863人864人865人866人867人868人869人870人871人872人873人874人875人876人877人878人879人880人881人882人883人884人885人886人887人888人889人890人891人892人893人894人895人896人897人898人899人900人901人902人903人904人905人906人907人908人909人910人911人912人913人914人915人916人917人918人919人920人921人922人923人924人925人926人927人928人929人930人931人932人933人934人935人936人937人938人939人940人941人942人943人944人945人946人947人948人949人950人951人952人953人954人955人956人957人958人959人960人961人962人963人964人965人966人967人968人969人970人971人972人973人974人975人976人977人978人979人980人981人982人983人984人985人986人987人988人989人990人991人992人993人994人995人996人997人998人999人1000人1001人1002人1003人1004人1005人1006人1007人1008人1009人1010人1011人1012人1013人1014人1015人1016人1017人1018人1019人1020人1021人1022人1023人1024人1025人1026人1027人1028人1029人1030人1031人1032人1033人1034人1035人1036人1037人103

(57) マサオーソーン。花か、花か、まねいしや花い
か、いろん花色か、あ、こ。

サユリ — 祖父さんには 打ちかいてしやるね
マサオ — あ、セウ登 たいな づういんへま

20. $\bar{p} \vee q$ 21. $\bar{p} \wedge q$ 22. $\bar{p} \vee \bar{q}$ 23. $\bar{p} \wedge \bar{q}$
24. $\bar{p} \vee q$ 25. $\bar{p} \wedge q$ 26. $\bar{p} \vee \bar{q}$ 27. $\bar{p} \wedge \bar{q}$

(9) $\frac{1}{n} \in I$ かつ $\frac{1}{n+1} \notin I$ とする。このとき、 $\frac{1}{n}$ は I の最大元である。

マリ — カマラ - カルチ ヒンナリ マリニ LP
うね かんたろと 思、て —

マサオ — いや、いまマサオの説明に
 主眼。その $\frac{1}{n}$ くらいに化けて付く
 ことになった。

Fundação Coopercotia

REVISTA LAVOURA E COOPERATIVISMO

AV. PEDROSO DE MORAIS, 631 - TELEFONES: 80-9186 - 80-7306

CAIXA POSTAL N.º 11.067 - SÃO PAULO-9 - S. P.

9

マサオー 何、か、あ、ん、α、か、

キヨロ一、いや、おかしなと、おかしな人、
おかしな人、

マサオ — 何、じいちゃん？

数字 210 — — — — — 数字 210 $2+1=3$ 1215
 1215 (1215) α 2.43 男 2.43

マサオ — とう 女 不仲か 狂男 いやか...

一 佐、主君 (阿、ひるん) 正二と急ん(南)
くんいや 阿、かあ、ちのいや

手紙に「いや、男の子は、女の子より
 好きなんだよ...」と書いてある。

アサオー そんなにうんか...、おれはこ
のフツセンで先ね。おれとこで育
つてんや、おれは子供共の時から
知ってる。小生の時から、陰にそび
くようおれをまね。

(66) 廿七リ — 飯、2才か 女 $\frac{3}{0}$

マサオ — ハハハ、 あれは カントンフ²し
いや

キヨシロ — 何ですか、そのカードに「レ」の
いうのは

マサオ——ハイアでけいこでもやるよ、登り
いや、お祭りやオムヤこつフエ、夕べ
いやよ

(73) マサオ — ハーハーハー カマウーが連中か
お婆さんを見に来るとさるいんまわん。
キヨシロ — そのカードに フレッシュですか。
マサオ — そういふよ。行つて見るか。
二人で行く。

サユリ — うれしい！ わたし せひ見たい！

(92) マサオ — どうした サユリさん

(87) マサオ — 顔色 良くないやないか サユリさん。
サユリ — ええ。もう大丈夫です。 今からいもう

サユリ — 仲直ります。 ほんとうです。

キヨシロ — 無理じゃあかんぞ サユリ！

サユリ — もう少し休んでいようか。

サユリ — ううん。 ほんとう ほんとうもう何
でもない。 うちの中でづうづうして

(93) サユリ — ううん。 ほんとう ほんとうもう何
でもない。 うちの中でづうづうして

マサオ — フォルミラーも忘れんように。

キヨシロ — 大丈夫ですか 友さん。 必要な
ものは忘れずに 二人で行くことに
しますから。

マサオ — バイアははしめようから
急いでいよう。 まあ 4-5分も 2人で
は充分用事があるしやろう。

キヨシロ — それ私も 友さん。 大丈夫いやと
留守中 アルトオ。 カルデアは急いでい
よう。

(100) マサオ — あい、お部屋はいらん、あれは
そんな男の子じゃない。まあちよと黄くっとな
どにもないでいはいか、大丈夫いや
ーり中カホにいらんいやし、心配
せんていはい。

マサオ — あやすみなさい。
(92) サユリ — どうしたサユリさん
サユリ — お部屋の中は暑くて... それに

(109) マサオ — 今夜は特別に暑さい。
サユリ — これはほんとにすまいです。
マサオ — あい、この夜風は気持ちいい。
サユリ — こうして、あんな虫の鳴くのを聞い
ているの、私大好きです。

(93) サユリ — 日本、夏の夜にも、涼みながら
虫の声を聞きつけた。

マサオ — そういや、ホタルもその頃いっ

(113) サユリ — ふういんにはホタルはいませ
んの？

マサオ — ねん、いるいる。いまは季節

マサオ — いはいか、日本、10倍もの大きさ
の、ワニと遊ぶ、あかしの灯を
つくるのー。

(100) サユリ — 何かか被れてましたわ
マサオ —
サユリ — ね、先にやすすせていたわ、き
ます。
マサオ —
サユリ — おやすみ下さい。
マサオ — あい、おやすみ。

(109) マリ — 煮ねえ、おいさん
サユリ — まだねえらしやるの？
マリ — うつも一番先にこっかいらし
やるのねえ
サユリ — どこかわるいのかしら？
マリ — お部屋へ行って見てみたわかし
ら？
サユリ — そうね、お母さんちよと×口
でよんで見たら..

(113) マリ — ~~お母さんちよと×口でよんで見たら..~~
~~かきとを聞かせ、入って見たら..~~
サユリ —

マリ — うつも一番早いのに、おきこけ
いで、おかしなと思って... それで、
Sia Engrácia 12 Pedro Roque 209
へいって、一歩に親父さんの部屋へ行って

もらたんぞす。

キヨシロ

マリ — うちをたたくとも返すかたないやで。

パートロが力まかせに開けといたら----(泣)

サユリ — (泣いてキヨシロにすがりつく)

(118) キヨシロ — (遺言を語る)

"近來、老令漸々とともに、身心とみに衰え、感じ居り候ところ、おん身らの到着とともに、思ひ残すこともこれたくなり、いまは一日も早く亡き妻君江へもとへ行きたいと念ひ、この月日を遅し申し候。今宵、その望み叶ふことを決行致すこととし、これをしてためる次第に候。何卒、この老人の身勝手なる行状をお許し願ひたい候。なあ、勝手ついでに申し願ひたきことは、小生のなまからを亡き妻君江の墓に並べ、夜々一隅に葬り下されたきことに任せ候。

(138) サユリ — 金中気をつけて...

キヨシロ — あい、大丈夫だ。

マリ — 4~5月のうちには帰れりやかい

キヨシロ — ジュアセイロまでだから今迄

Fundação Coopercotia

REVISTA LAVOURA E COOPERATIVISMO

AV. PEDROSO DE MORAIS, 631 — TELEFONES: 80-9186 — 80-7306
CAIXA POSTAL N.º 11.067 — SÃO PAULO-9 — S. P.

14

は、か、ネコ-20 かう せいやば、早く帰れ
るからう。

Thaddeus

(7)

Massao:- Que acha, comparado ao Japão?... Não é uma beleza de ex
tensão?

Aqui estamos no Nordeste do Brasil. No Sul, pelos lados do Estado de São Paulo, há muitos japoneses; mas, por aqui não se vê nenhum. Só eu. Eu aguardei sozinho nesta paragem. Com a vinda de vocês, porém, posso agora me sentir encorajado. Nada mais confortador. Sinto-me aliviado.

Minha fazenda... Hum, fazendo é o nome brasileiro do "noen"... se tornará mais e mais bonita com a ajuda de vocês...

Comparada às terras de cultura tão pequeninas do Japão, minha fazenda tem uma extensão várias dezenas, centenas vezes maior. Vou-lhes mostrar melhor amanhã, mas é tão grande que vocês se surpreenderão. Nele faço a criação de gado. Acontece que não é como no Japão, onde se criam um ou dois animais. Eu tenho centenas de cabeças de gado.

Boi é um bicho maravilhoso, principalmente o bezerrinho. Sajuri, você deverá gostar.

Sayuri: - Que bom... poder ver bezerrinho... Deve ser realmente adorável, não acha, mamãe?

Mari: - Nem consigo fazer idéia, dizer que há ___ centenas de bois... Mas, sendo a terra tão grande assim... (passeia o olhar em todas as direções).

Sayuri: - É sim. Acostumada à visão das terras cercadas pelas montanhas, a gente fica boba de ver tanta amplidão...

(9)

Massao: - Tem alguma coisa aí dentro?

Kiyoshiro: - Isto?

Massao: - Parece algo importante...

Kiyoshiro: - Se titio vir, acho que se lembrará. Trouxe a relíquia da casa legada pelos nossos antepassados.

(10)

Kiyoshiro: - Já imaginava pelas cartas do titio, mas esta exten-

são de terras superou todas as minhas expectativas!

Sayuri:- As terras do titio vão até aquele fim do mundo!

Kiyoshiro :- Aquele gado todo também pertence a ele!

Sayuri: - Mal posso acreditar no que vejo.

(13)

Sayuri: - Oh, que houve com aqueles bois?

Massao: - Tangem os bois daquele jeito para o curral, a fim de darem comida.

Kiyoshiro: - Que habilidade daquela turma, no tanger os bois!

Massao: - Ah, sim. Eles manejam o gado como querem.

(15)

Sayuri: - Este quadro do Monte Fuji, será que o titio o trouxe do Japão quando veio para cá?

Mari: - Deve ser.

Sayuri: - E esta deve ser a figura de Maria.

Mari: - Doravante, em vez de "tatami", vamos nos sentar assim. (senta-se no sofá).

Sayuri: - Com o tempo, vamos nos acostumar tanto que não conseguiremos mais sentar sobre o "tatami".

Mari: - É, pode ser.

Kiyoshiro: - O tio Yamada já está com os cabelos todos brancos.

Massao: - Imagino. Ele é 5 anos mais velho que eu. Como vai a tia Nishiyama?

Kiyoshiro: - Ainda está forte. E o titio, o senhor parece bem moço para a sua idade.

Massao: - Isso é devido ao clima bom do Brasil, que permite que se viva tranquilamente... Mas, depois da morte da velha, sinto que perdi um pouco o ânimo...

(17)

Mari: - Que é isto?

Massao: - É xuxu. Parecido com pepino.

Sayuri: - E este prato?

Massao: - Dão o nome de "galinha ao molho pardo".

Sayuri e Mari: - Que vem a ser?

Massao (para Engrácia): - Que é molho pardo?

Engrácia: - Sangue de galinha com molho de vinagre.

Massao: - Cozida com molho feito com sangue de galinha e vinagre.

Sayuri e Mari: - Oh!

Massao: - Eu tenho também uma horta.

Mari: - Verdade? Então tem beringelas, nabos e acelgas?

Massao: - Não, essas coisas ainda não tenho. Gostaria de ter, mas não consigo obter as sementes.

Mari: - Nesse caso, vamos pedir que nos mandem do Japão.

Sayuri: - Titio, há ameixeiras e cerejeiras?

Massao: - Com este calor, não dão bem nem a flor de ameixeira, nem a de cerejeira. Mas aqui há muitas flores lindíssimas

(18)

Massao: - Esta era a preferida de Kimie.

Sayuri: - Oh, como é linda! (pega na mão)

Mari: - É sim! Queestampa bonita do quimono.

Massao: - Dou-lhe de presente.

Sayuri: - Verdade?

Massao: - Ah, fique com ela.

Sayuri: - Muito obrigada, titio. Guardamei com carinho.

(20)

Kiyoshiro: - No começo será duro, mas, com o tempo, nos acostumaremos e gostaremos da vida daqui.

Sayuri: - É, tenho saudades do Japão, que está tão distante, mas tenho a impressão de que gostarei de viver aqui.

Kiyoshiro: - Não temos amigos nem conhecidos, mas as suas palavras me tranquilizam.

Sayuri: - O clima e a comida diferem muito do Japão, mas acho que logo nos acostumaremos.

Kiyoshiro: - As pessoas que trabalham também parecem boa gente, se ensinar métodos novos e trabalhar bastante, acredito que a lavoura melhorará muito.

(25)

Massao: - Este é Mário. O outro é José. Aquele é Paulo... Este é Antonio Garcia. O Antonio é o meu braço direito, homem de minha confiança.

(28)

Massao: - O que está plantado deste lado é mandioca. É uma batata que não existe no Japão. Aquela ali é plantação de milho. Estas são as minhas culturas principais.

Kiyoshiro: - Aqui não adianta plantar arroz?

Massao: - Adianta. Todos os anos, plantamos um pouco em terra seca. A lavoura está em mãos de camaradas, mas daqui em diante espero contar com a sua ajuda.

Kiyoshiro: - Pois não. Empenhar-me-ei com toda a minha força.

Massao: - O gado está confiado inteiramente a Antonio Garcia. De gado ele entende bem. Pode-se ficar tranquilo.

Kiyoshiro: - Está me parecendo que esta tal de caatinga é areia, não se encontrando terra muito boa.

Massao: - É verdade, tudo por aqui é deste jeito.

Kiyoshiro: - Acho que com um pouco de água melhoram as plantações. Não existe aguada por perto?

Massao: - Existir, existe. Seguindo-se um km deste lado se encontra um rio. Se bem que pequeno...

Kiyoshiro: - Ah, sim? Isso é bom.

Massao: - Eu também faz tempo que pensava em puxar a água desse rio, mas...

Kiyoshiro: - Titio, que tal se aproveitássemos imediatamente essa água? Seja como for, mostre-me o rio.

Massao: - Ahn, fica logo aí. Vamos até lá.

(29)

Sayuri: - Com melhor trato, poderemos ter frutas e verduras bem boas, não acha?

Mari: - Acho sim. Vamos nós duas nos encarregar da horta e do pomar.

Sayuri: - Se adubarmos com o esterco daquele pasto e dermos água todos os dias, com o clima bom daqui colheríamos nabos deste tamanho.

Mari: - É verdade. Nabos, acelgas, cenouras e pepinos. Vamos pedir ao Japão que nos mandem sementes.

(35)

Sayuri: - Como é silencioso... Seria o grilo que está cantando? Parece noite de verão do Japão...

Kiyoshiro: - De dia fez calor, mas a noite é realmente aprazível.

Em vez de verão, tem-se a sensação de início de outono.

Sayuri: - Faz lembrar as coisas do Japão.

Kiyoshiro: - Ahn. A estas horas, que estaria fazendo o pessoal?

(57)

Massao: - Ah, são muito bonitas, as cores variadas.

Sayuri: - Não sente saudades, titio?

Massao: - Ah, no Brasil, é a primeira vez que assistirei a "Tanabata Matsuri". É verdade, mandei agora pouco o Antonio cortar bambus. Logo deverá trazê-los.

Mari: - Os camaradas deverão ter uma surpresa, estranhando, não acha?

Massao: - É, mas deixei explicado a eles o que seja "Tanabata Matsuri". Aliás, mandei que encerrassem já os serviços.

Massao: - Houve alguma coisa?

Kiyoshiro: - Não é nada. Só que, gostaria de saber do titio...

Massao: - Sim?

Kiyoshiro: - Titio, Antonio é realmente um homem que merece confiança?

Massao: - Claro, é um homem ~~em quem se confia~~ direito. Mas, por que quer saber de repente uma coisa dessas? Aconteceu alguma coisa?

Kiyoshiro: - Bem, não é que houve algo... Apenas se comportou de um jeito que me intrigou um pouco.

Massao: - Está bem então. Ele nasceu aqui na fazenda e aqui cresceu. Conheço-o desde pequeno. Desde criança veio trabalhando com afinco.

(66)

Sayuri: - Que é aquele barulho?

Massao: - Ah, ha, ha. Aquilo é candomblé.

Kiyoshiro: - O que é candomblé?

Massao: - É festa que, na Bahia, celebram em todos os lugares. São flautas e tambores da festa.

(73)

Massao: - Ah, ha, ha. Os camaradas nos convidam a ver a festa.

Kiyoshiro: - Esse tal de candomblé?

Massao: - Sim. Que tal, vmos todos ver?

Sayuri: - Que bom! Queria tanto ver!

(87)

Massao: - Sayuri, você está parecendo mais bem disposta.

Sayuri: - Sim, já passou. Hoje posso recomeçar os trabalhos.

Kiyoshiro: - Eu acho que não pode ainda, Sayuri. É melhor descansar mais um pouco!

Sayuri: - Que nada. Verdade, é verdade, não tenho mais nada. Em vez de ficar em casa sem fazer nada, queria logo sair para fora.

Massao: - Não se esqueça da formicida!

Kiyoshiro: - Não se preocupe, titio. Para não esquecer, anotei por escrito tudo que é necessário.

Massao: - Como não conhece a Bahia, tome cuidado. Mas, tendo 4 a 5 dias, acredito que você terminará de fazer toda a compra.

Kiyoshiro: - Em vez disso, titio, peço que fiscalize o Antonio Garcia na minha ausência.

Massao: - Não se preocupe, ele não é homem assim. Verdade que tem umas esquisitices, mas não tem problema. Ademais, como ele fica o dia inteiro no campo, não há o que preocupar.

(92)

Massao: - Que foi, Sayuri?

Sayuri: - Faz tanto calor ~~que~~ no interior do quarto... Além disso, não tenho sono.

Massao: É verdade. A noite, hoje, está quente demais.

Sayuri: - Mas aqui está tão fresquinho.

Massao: - Ah, a brisa da noite é agradável.

Sayuri: - Gosto tanto de ficar assim, ouvindo o coaxar dos sapos.

(93)

Sayuri: - No Japão, também, fiquei me refrescando nas noites de verão, a ouvir o coaxar dos sapos.

Massao: - É também época de vagalumes, não é mesmo?

Sayuri: - No Brasil não há vagalumes?

Massao: - Como não! Agora não ~~é~~ a época, mas são dez vezes maiores que os do Japão, e revoam em bandos enormes com luzes claríssimas.

(100)

Sayuri: - Não sei por que, sinto-me fatigada.

Massao: - ...

Sayuri: - Gostaria de me deitar.

Massao: ...

Sayuri: - Boa noite.

Massao: - Oh, boa noite.

(109)

Mari: - Não acha estranho? O titio...

Sayuri: - Será que estaria dormindo ainda?

Mari: - Ele que chega aqui todos os dias em primeiro lugar...

Sayuri: - Estaria sentindo-se mal?

Mari: - Não seria melhor irmos ver no quarto?

Sayuri: - Eu acho. Mamãe, experimente chamá-lo da porta.

(113)

Mari: - Ele que acordava antes de todo o mundo... Como não aparecia, estranhámos... e, daí, pedimos a Siá Engrácia que chamasse o Pedro Roque, para que este nos acompanhasse ao quarto.

Kiyoshiro: - ...

Mari: - Batemos na porta, mas como não abria, Pedro a arrombou, e, então,... (chora).

Sayuri: - ... (Chorando, desmorona sobre Kiyoshiro).

(115)

Kiyoshiro: - (lê a carta) "Vinha ultimamente sentindo cada vez mais profundamente a solidão da velhice. Com a chegada de vocês, vi que já não precisava mais me preocupar com o que quer que fosse. Já agora, sinto apenas o desejo de me juntar o mais depressa possível à falecida Kimie. Decidi executar o intento esta noite, pelo que passei a redigir estas linhas. Peço perdão para este

meu ato egoísta. Ainda, um pedido egoísta: enterrem-me ao lado do túmulo de Kimie, no jardim".

(138)

Sayuri: - Tome cuidado na viagem...

Kiyoshiro: - Não se preocupe, não há perigo.

Mari: - Voltará dentro de 4 a 5 dias?

Kiyoshiro.: - Desta vez, é só até Juazeiro. Se o negócio for bem, acho que poderei voltar logo.